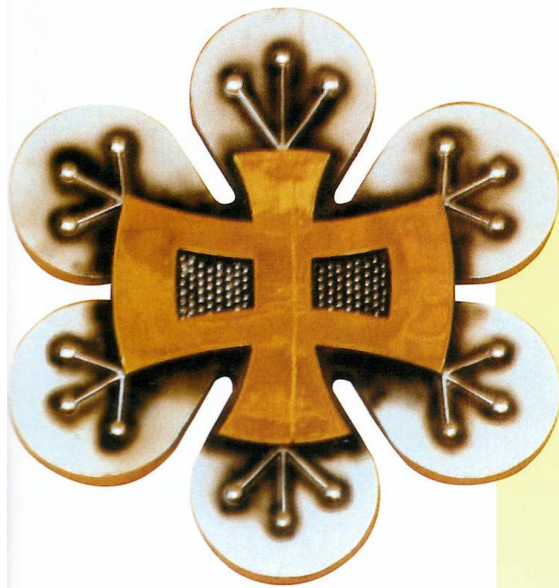
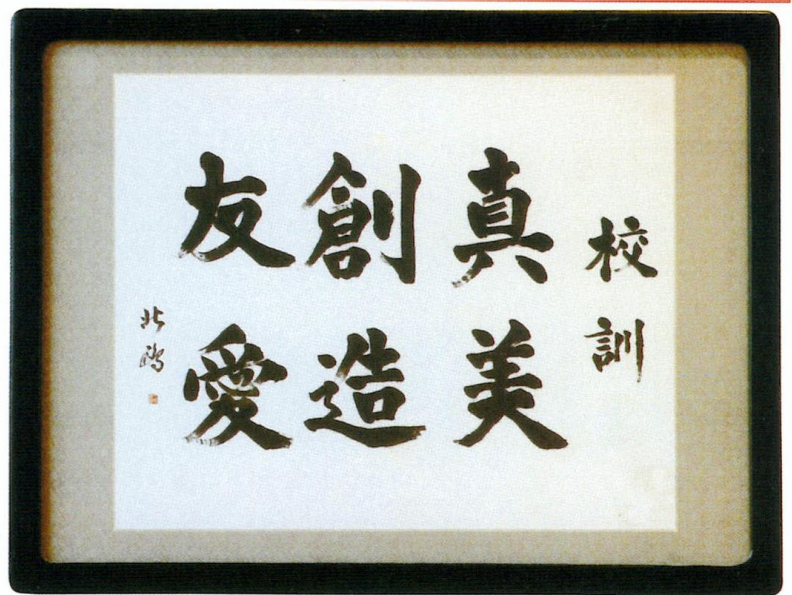




○校旗

○校訓



○校章

雪 華 宝 中

小学校が、江陽の「陽」。従って中学校は「江」から校章を発想することで、小中の一貫性と統一をはかった。

発想にあたって、「教育は水の如く自在にして、いのちの榮えを司る」ことに思いをはせ、水の最も美しい姿を雪華の形に求め、伝統に磨かれた雪紋をかりて、自然の恵みと偉大さを象徴し、真理探究の険しさと美しさを表した。

中央には、「中の宝槌」をのせて、若人達の意志が、願いに高められ、その働きが徳に通ずるとき、真の幸福への道が招かれることを示唆した。

これらは、昭和四十二年度開校にむけて、草創の努力をかたむけられていた、初代学校長夏坂廣志氏の意志により、栗村通盛氏から相談を受け、その意をくみ考案したものである。

校歌

作詞 横山 武夫
作曲 木村 繁

天の廣原 太平洋と
寄り合う渚より 日出づところ
は陽江陽 かわりなく
輝けり 創造の大火
若人の 命は燃えて
ものなべて 常に新らし

三偉霊仰がん 臥牛の山
馬淵の流れ 極まるころ
海幸の郷 潮のごとく
聞けや 時代の機械の轟き
真実美あれ わが学び
友愛の世界を 建てんかな

北 路

(混声三部合唱)

江陽中学校 校歌

横山 武夫 作詞

木村 繁 作曲

Moderato (♩=100)

